

第 8 7 7 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 2 年 9 月 2 9 日（火） 1 3 : 3 0 ～

場 所 益田市役所 第 1 会議室

益田市教育委員会

第 8 7 7 回 教育委員会定例会

招集年月日 令和 2 年 9 月 2 9 日（火） 1 3 時 3 0 分～

招 集 場 所 益田市役所 第 1 会議室

議 事 日 程

第 1 会議録の承認

第 2 教育長報告

第 3 議題

報第 3 3 号 令和 2 年度（令和元年度事業分）益田市教育委員会点検・評価報告書について

報第 3 4 号 第 5 4 3 回益田市議会定例会一般質問について

報第 3 5 号 令和 2 年度益田市一般会計 9 月補正予算について

第 4 その他

(1) 協議

・小中学校の学習発表会・文化祭に向けてのガイドライン（案）について

(2) 情報提供

・ひとが育つまち益田に係る資料提供について

(3) その他

出席者

教育委員会

教 育 長
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員

柳 井 秀 雄
中 野 純
舟 橋 道 恵
村 上 三恵子
梅 津 富美子

事務局職員

教 育 部 長
ひとづくり推進監
教 育 総 務 課 長
学 校 教 育 課 長
学 校 教 育 課 参 事
文 化 財 課 長
社 会 教 育 課 参 事
人権・同和教育推進室長
美 都 分 室 長
教 育 総 務 課 長 補 佐
教 育 総 務 課 主 任

野 村 美夜子
大 畑 伸 幸
長 嶺 勝 良
田 原 啓 文
森 脇 達 也
山 本 浩 之
岡 崎 賢 一
石 田 公
中 島 純 子
齋 藤 勝 義
中 田 香 織

柳井教育長 定刻となりましたので、第877回益田市教育委員会定例会を開催いたします。
それでは、早速ですが議事に入らせていただきます。

第1 会議録の承認

柳井教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

柳井教育長 特に委員の皆様方にお知らせしておく内容としましては、22日に古代文化センターテーマ研究検討会に参加しました。これは益田市に駐在しておられる県職員の目次さんが研究されている中世石見の在地領主の動向についての研究が3年目を迎えて今年度で終了となりますので、その検討会がありました。

また、25日には三宅御土居跡の視察がありました。三宅御土居跡について、実際にどういう状況で今後どのようにしていくのかというところで、元県議の方から要望があり視察を行いました。

簡単ですが以上になります。

舟橋委員 8月26日の小中学校校長会の要望では、どのような要望がありましたでしょうか。

柳井教育長 主には、これからICTの機器等が入ってきます。GIGAスクールということで1人1つのタブレットが入ります。そういう中で、この大容量のものを今後どうしていくのか。今学校では、ネットが繋がりにくい状況が実際にあります。こういうものを何とかスムーズに動くようにしていただきたいという要望がありました。

また、給食費の公会計化についても話がありました。なかなか難しいという状況にあるということは伝えております。今、学校と一緒に取組んでいることで収納率が高くなっているという状況があるのも事実です。県内では雲南市だけが公会計になっておりますが、そういったあたりの課題があるということを話しております。

舟橋委員 ありがとうございます。

柳井教育長 それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

第3 議題

○報第33号 令和2年度（令和元年度事業分）益田市教育委員会点検・評価報告書について

柳井教育長

それでは、これから第3の議題に移らせていただきます。

報第33号令和2年度（令和元年度事業分）益田市教育委員会点検・評価報告書について、事務局よりお願いします。

長嶺課長

令和2年度（令和元年度事業分）の点検・評価報告書を外部評価委員の皆さんの意見を踏まえ作成しました。6月の定例教育委員会でも教育委員会として取りまとめたものを報告させていただきました。大きくは変わっておりませんので、その部分は割愛させていただいて、外部の方の視点でいろいろな意見をいただいたところを報告させていただきます。

点検・評価報告書の3ページ目をご覧ください。今年度は外部評価委員会を7月9日、8月18日に開催いたしました。東京在住の志々田会長につきましてはオンラインで参加いただきました。

15ページから各委員のコメントを記載しております。志々田会長からは、点検・評価を行う項目、目標の設定方針、評価方法についても外部評価委員会の協議事項として設定をした、前年度内に検討を行っているという点、教育委員会の行政活動の透明性を高い水準で確保しようとする努力が続けられているところは非常に評価が高いという意見をいただきました。

また、提案として、全般的な施策にわたる点検・評価がいわゆる総花的に業務を取り上げて点検・評価を行うということも重要ですが、特に重点的に点検・評価を行うテーマを設定し、詳細な分析を行うことも必要ではないかという意見をいただきました。

また、原副会長、大庭委員、佐伯委員からは新型コロナウイルスの問題について取り上げられています。特に原副会長からは、新型コロナウイルス感染症の流行は30年には予想できず、令和元年度の事業点検・評価項目には含まれていませんが、大きな歴史的史実に向き合っている今、報告書に何らかの形で記載する必要があるという意見がありました。事務事業によっては、コロナ禍の影響を多少なりとも受けた事務事業があったのではないかと、来年度はこのコロナのことも十分視野に入れて、きちんとした事務事業の総括をしてほしいということがありました。

こういったことを踏まえて19ページに総括してまとめております。外部評価委員の皆さんもこれは成果として認められるという部分、これがライフキャリア教育の推進における益田版カタリ場です。最初に取り組を行った生徒が成人を迎え、成人式で取ったアンケートでは、益田で暮らしてみたいというのが前年の半分から7割ということで大きく増加したということで、ここは一定の評価がされる部分です。

一方で、これからもっと充実した取組をすべきというものが、学習習慣の形成というところです。平日の家庭学習時間が1時間以上の割合は、中学1年生で県平均61.2%に対して益田市は39.1%で非常に低いということがあります。一方で、スマートフォンであったりそういったもの

の使用時間というのは島根県平均よりも高くなっているということで、いわゆる家庭内での取組ということをしっかり取り組むべきではないかという意見をいただいています。このことはずっと会議の中でも言われています。あえてここで総括すべく記載させていただきました。

また 新型コロナウイルスの対策が学校教育現場や社会の中で、子どもの学力、教師の生徒指導、学校の環境、教職員の負担感、それから人権問題等々でどんな影響をもたらしたか、そういう点について一定の整理を行う必要性についての意見をいただいています。令和2年度の目標に対し、点検・評価を行う際は、その影響を踏まえた点検・評価を行っていきたいということで総括としてまとめております。

最後に、1つ1つの項目は、いずれも重要なことではありますが、ただ総花的に評価項目として取り上げるのではなく、主眼とするものを絞り込んで、点検・評価が何のために行われるのか、評価することが主たる業務にならないように今一度考え方を整理していきたいということで結んでいます。

この点検・評価報告書を、先般議会で報告をさせていただいて、今日の教育委員会をもって公表していくことになっています。

また、令和2年度の事務事業の点検・評価目標をお配りしておりますが、6月定例教育委員会でお示ししたものよりも、もう少し詳しく物事が書けるように様式を変更しております。

先ほどの点検・評価報告書の資料をご覧くださいと、例えば22ページの新学習指導要領への円滑な移行、先行実施及び全面実施というところで、何を評価項目としたかという、左側に書いてある教職員対象の研修の有効性というのが書いています。目標が何なのか、実績としてどうだったのか、どの程度達成できたのか、そもそもその事業の狙いは何だったのか、事業の成果は何だったのかというのを端的に書くような形になっていますが、なかなかこれでは取り組んでいく上での課題などが見えないということで、改めて評価シートの内容を見直しました。

それで、令和2年度の事業別点検・評価シートを見ていただくと、まず重点項目としては何か、取組方針として何か、評価の対象となる事業は何か、評価対象事業を行う上で目標は何か、ここで言うと、週1回以上の授業での活用、中学校96%という部分の目標を数字で表しています、今後、実績がどうだったのかというのを記載いただきます。その上で、事業の成果としてどうであったのか。それを基に、事業を進めていく上で改善事項は何だったのか。改善事項または課題として挙げられたものは何だったのか。それらを踏まえて、今後この取組事業をどうしていくのかというのを今後の方向性のところに記載するという形にしております。

進捗率の評価点、それから達成時の評価点、これは自己採点の点数です。

この点数のつけ方も多くの人により分かりやすいようにということで、表紙の裏側に点数の出し方というものを参考として出しています。この点数の出し方というのは、市の行政改革に係る取組の評価点数の出し方を参考にしております。点数のつけ方はいろいろあるかも知れませんが、透明性が今まで以上にはあると思いますので、こういったシートで取組を行いたいということも外部評価委員の皆さんに議論いただいて、本年度の目標を設定したという状況であります。

いずれにしても、今年度点検・評価報告書と目標設定という部分を踏まえて今年度がスタートしております。以上です。

中野委員

全体を通しての確認ですが、達成度100%というのに対して、この評価項目は継続していかれるのか、違う観点から評価という形を考えておられるのか、お聞かせください。

長嶺課長

外部評価委員の皆さんからもありましたが、点検・評価報告書の5ページに総合評価というものがあります。Aと位置づけたものが全部で3つあります。細かく見ていくと、達成率100%というのは他にもありますが、なぜAの評価になっていないのかという意見をいただきました。確かに数字上の達成は100%だったけども、内容的にもう一歩ではないか、もっとやることがあるのではないかといいところで、そういったものにはAの評価をしておりません。中身の取組をもっと充実させるというやり方で次年度以降も掲げているところもあります。一方で、一定の役割を終えたというのはまだありませんが、新たな観点からの評価ということもあると思います。

中野委員

ご説明ありがとうございます。

村上委員

それぞれの項目について丁寧に整理してあって、皆さんの真摯な姿勢を感じております。

そうした中で、令和2年度の点検のところでは、具体的な点数の評価であるとか、改善または課題であるとか今後の方向性まで出た中で、次のステップに向けて点検・評価が行われているということがとても目に見える形で良いと思っております。

今年に関しては、コロナの関係もあって、この全体の評価作業のスケジュールがずっと押してきたという形になっておりますが、例えば来年以降、この状況が続いてきた時に、年間のスケジュールの中で、こういった点検・評価をしていく時期というのはいつ頃を考えておられますでしょうか。できるだけ当年に生かしていくことができればと思います。

長嶺課長

年度末のところでここまでまとめて、翌年度のスタートに合わせていくというのが一番ですが、最初の段階で各課から評価というのを出していただき、それを基にして、次年度の目標をたてるというのを4月の段階に行います。しかし、外部評価委員会を開いていろいろな意見をいただいと

いう作業になるとそれからの作業になりますので、評価報告書をまとめて公表するというのは例年9月に実施しており、基本的には今はスケジュールどおりに動いております。半年ほどずれてくるというのはどうしてもあると思っています。

村上委員

そうした中でも、それぞれの担当で年度末に課題などをきちんと整理ができていうのであれば、公表が9月であっても、実際には翌年度に改善点などが生かせることができる流れになっているということで安心しました。

梅津委員

点検・評価に対する外部評価委員からの意見というところで1つお聞きしたいと思います。

小中一貫教育と小中連携教育との違いについての周知ということで、この違いを説明いただきたいのと、その小中一貫教育がまだ周到には行われていない状況が見られるというところで、どのようなところをこれからどのように改善されようとしているのか、そういったところを教えてください。

森脇参事

小中連携という言葉はずっと昔からありまして、私が現場におりました時に、小学校と中学校をどう繋ぐかというところをすごく大切に思っております。

それで、連携といいますと小学校6年生と中学校1年生の接続の部分が中心になりがちで、実はそれ以前の低学年の段階であったり、あるいは中学校の卒業段階であったり、同じような考え方で校区の子どもたちを育てていくということが必要であるということで、9年間を見通した子どもの育ちを支援していくという体制を何とか益田市でも実現できないかということで、小中一貫という表現をさせていただいております。

学校現場としましても、一貫教育という言葉の部分がなかなか浸透し切れていなかったというところもありまして、令和元年度には小中一貫教育についての「ひろまるプラン」という名前をつけて、実際に図式化したものを校長会で配らせていただいて、少し言葉に対する理解を得ていたという現状があります。

令和2年度におきましては、コロナ関係で十分なことにはなっていませんが、中学校の先生方が小学校に来て授業をしていただくというようなことにもチャレンジしていただくように計画を立てていただいております。

具体的には、特に一番効果が大きいのは外国語教育です。小学校では今年度から全面実施になりましたので、小学校へ中学校の英語の先生が授業をしに行く取組を今年度試行という形で学期に1回程度取り組むようお願いしております。令和3年度からはその部分をもっと太くして、英語以外の教科でも取り組んでいけるようにしたいということを校長会にお願いしているところです。

梅津委員
舟橋委員

ありがとうございました。

この点検・評価報告書について、しっかりと向き合って評価し、次へつなげていこうという姿勢がよく感じられました。真摯に取り組んでいるということがそのまま表現されていて、伝わってくるということはとても大事なことでと思います。

この点検・評価というものは、地方教育行政の法律に基づいて取り組まないといけない部分もありますが、それだけではなく私たちが住んでいるまちの子どもたち、あるいは大人もみんながより良い生活やより良い力をつけていくようにしていくということで、しっかりと取り組んでいていただきたいと思います。

そういう中で、この点検・評価シートのことについて、少し細かくなりますが、評価対象事業ということで書いてありますが、そのあたariを変えたらどうなるんだろうというところがあります。というのは、この評価というのは市民への説明責任も一つあるということです。より分かりやすく、より教育委員会の事務内容の説明責任を果たすものになっていかないといけないという点で、例えばで申し訳ありませんが、目標設定の1ページを見ていただくと分かりますが、評価対象事業として教職員のICT活用率、中学校が何回使ったかというところが評価の観点になっておりますが、事業実施方法は学校が指導していくということで見ていると思います。私はそういうところの考え方をもう少し変えて、これからこのICT機器を活用していくわけですが、教育委員会の事業として、果たしてどのように活用されたのか、活用しやすかったのか、あるいはもっと活用しやすいようにどうしてほしいのか、それが課題になってきて、教育委員会のあり方が問われていくのではないかと考えております。適切かどうかは分かりませんが、評価対象事業のあり方がどうだったかということの評価していく必要があると感じます。

長嶺課長

この評価シートは作ったばかりなので、これから意見を伺いながら改良していくところもあります。

やり方としては、学校に対していろいろ指導していくという部分ですが、これを進めていった結果を事業成果へ書いていくわけですが、その中でそもそものICT機器の活用ということを掲げたことがどうだったのかというのは、この結果を踏まえて今後の方向性というところで最終的に評価をして記載をしていくという形になろうかと思っています。この取組をこういう目的の下でやっていこうという形で、取り組んだ結果、極端な話、やっても無駄だったというような答えが結果として出るのであれば、この掲げた課題というのは見直していく方向だということを書いていく形になります。あくまで今は、こういった事業に取り組んでいきたいということに記載したという状況です。

舟橋委員 その辺は私も理解しているつもりですが、取組方針が授業改善となっていますので、活用率がすごく上がったから授業改善されたかという、それはまた違うという意識を持っております。当然活用率が上がらないと実際にはうまくできていないということがあると思いますので、それが必要だと思いますが、そこら辺のところどのように表現していいかわかりませんが結果は欲しいわけです。

長嶺課長 結論として、年度末のところでそれぞれの課で取り組んだ結果、活用率も上がって授業改善に取り組んだ、結びつけたということが最後には書ければ一番いいのですが、中には他の部分ではそこには至らなかったという判断も出てこようかと思います。そういったものは、今後に向けてというところで大きな課題として記載をしていくことになると思います。

舟橋委員 1つ提案としては、学校評価は各学校がしているわけですので、その学校評価の中にこれを入れてもらう。授業改善につながったかというあたりのところを、この取組方針も1つ入れていただいて、そこで評価してもらったものをもらう。そうすると、各学校の結果が分かるという報告でも良いのではないかと思います。

長嶺課長 また参考にさせていただきます。

柳井教育長 それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員 ＝全員了承＝

○報第34号 第543回益田市議会定例会一般質問について

柳井教育長 それでは続いて、報第34号第543回益田市議会定例会一般質問についてお願いします。

野村部長 今回、7名の議員さんからご質問を受けました。今まででしたら、質問に対してお答えした概要をまとめたものをお示ししておりましたが、今回、日本遺産、それから中高一貫教育という大きい表題もありましたので、お答えしたままをできるだけ忠実に資料に記載しておりますので、またご一読いただきたいと思います。

まず、日本遺産等を含めて文化財関係に佐々木議員、弘中議員、三浦議員、弥重議員からご質問いただきました。中高一貫教育については佐々木議員、三浦議員、大賀議員、そしてGIGAスクールの関係と新しい生活様式の関係について永見議員、そしていじめ問題について寺戸議員からご質問を受けております。

まず日本遺産に関してですが、6月に日本遺産認定を受けました。そして、どういった事業をするかというところを今までの既存の事業を取り込んで、新たなものも入れながら、補助を申請して採択を受けているところです。

これからどういったことに取り組むのかというところを佐々木議員から問われました。ソフト面としては、まち歩きマップの作成や映像コンテンツの制作、専用サイトの開設などの情報発信に取り組む。または、中世の食などの体験コンテンツ等の開発を行って、地域のブランド化を推進したいと考えているということ、それから文化財課を中心に、小中学校や公民館で子どもたちや市民の方々に出席講座を届けたいと思っているということをお答えしました。

ハードの面では、ご承知のとおり歴史民俗資料館の問題がかねてより課題でございましたが、この日本遺産の認定を機に、歴史民俗資料館を改修して、ビジターセンターの機能を持たせたいと思っております。しかし、今まで担っておりました歴民の機能と今後予定していますビジターセンターとしての機能がどのように両立させられるのかというところは今後の検討課題でございますので、今の条例上の歴民の位置づけ等も含めましてさらなる研究、検討を続けていきたいと思っております。

そして、中高一貫教育については、市長の今回の選挙に当たりまして、大きい項目として出ております。やはり今の益田市の児童生徒の大きな課題である学習時間が非常に短いこと、学習へ向かう意欲が年齢が高くなるにつれて低下が見られるというところ、そういったところをどのように克服するかというところ、そして益田市が今までずっと続けてきましたキャリア教育の良いところを生かしつつ、中高一貫教育に結びつけていきたいと考えているということをお話させていただきました。

県とはどういう話をしているのか、各高校とはどういう話をしているのかというところも問われましたが、まだ正式に話をしている段階ではございません。益田市の目指すこと、やりたいことをもう少し明確化して、協議していきたいということをお答えしております。

次に、寺戸議員からいじめ問題について問われました。現状のところも聞きつつ、責任の所在について問われ、いじめに対する向き合い方を問われました。それに対しましては、第一義的に学校に一番近い存在であります教育委員会が初動については責任があります。しかし、重大事案ということであれば市全体として取り扱っていくということをお話しさせていただきました。

次に、永見議員からGIGAスクールの経過について聞かれました。予算も確保できまして、1人1台確保できるように事務を進めております。入札も終わり年度末までに少しずつ入れていただくという形で進めていきたいというお話をしております。

それから、コロナに関して、文化芸術やスポーツが少ししばみかけているのが非常に気になるというお話がありまして、そういったところをどのようにするかというところについては、図書館をはじめ指定管理でお願い

している体育館等の施設も非常に頑張っておられ、まだまだ全てが元に戻っている状態ではありませんが、しっかり I C T も活用しながら取り組んでいるというお話をしております。

そして、弥重委員からは、日本遺産のお話と併せて、三宅御土居や七尾城の整備についてしっかりと取り組んでほしいということがありました。これは、期間の長くかかる、そして経費も多額に要する事業ですので、益田市の財政の状況もよく勘案しながら取り組んでいきたいとお話しました。簡単にご説明させていただきましたが、また帰られまして目を通していただければと思います。

舟橋委員

一般質問の概要をこのように報告していただきありがとうございます。要所要所はいつも報告していただいておりますので分りますが、今回、特に中高一貫教育についての市長の考え方等がよく分りました。

このように市長が考えておられることというのは、突然この議会で考えられたわけではないはずです。もっと前から考えておられたはずですが、教育委員会の中でそういう話題というのは一切出ていないですし、ということは教育委員会そのものにその考え方がなかったということになります。そのあたりももう少し私たちに伝えていただきたいと思いますし、一緒になって考えていく必要があるのではないかと思います。

野村部長

選挙に関しての 1 候補者として掲げられた政策というところは、今回 3 人立候補されて、それぞれが政策を掲げて選挙に臨まれたわけです。実は、議会の中でも前もって相談していたのではないかとということを聞かれた議員もおられましたが、現実にはこちらから市長にアプローチをかけるというのは大変難しいことです。1 候補者として、これはどういうことなのか聞くというのは難しいところがありますので物理的にはできないことだと思います。

当選されたのちになるべく早い段階で教育長と協議しに行くということで今日まで来たというところが実情です。

舟橋委員

本当にそういう難しさというのはあると思います。ただ、もっと前から考えられていたのかと思いましたのでお聞きしました。いろいろな情報が突然出てくるのではなく、少しずつでも情報が得られるのであれば、何らかの準備などができると思ひまして、その点をお伝えさせていただきました。

柳井教育長
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

＝全員了承＝

○報第 35 号 令和 2 年度益田市一般会計 9 月補正予算について

柳井教育長 それでは続いて、報第 35 号令和 2 年度益田市一般会計 9 月補正予算に

ついてお願いします。

長嶺課長

この9月議会での補正予算について報告させていただきます。

まず、学校再編対策費について、真砂中学校が今年度をもって閉校になり、閉校記念式典を地元の方々が実施するということで70万円の補正をいたしました。

次に、教育委員会事務局事務費ということで37万9,000円を上げております。これは教育委員会の正規職員が傷病休暇で休まれたために、その代替ということで2か月間、会計年度職員を雇用した経費になります。突発的なことで当初には分かることではありませんので、補正で上げております。

次に、感染症対策・学習保障支援事業費です。国の新型コロナウイルス特別対策事業費ということで各学校が臨時休校の後、学校を再開して、その間のいろいろな遅れや対策に係る経費などを各学校に補助するものです。小学校1校当たり平均100万円、人数に応じて交付するということです。小学校全体で1,700万円です。後のページで出てきますが、中学校についても同様に1,050万円の補正をいたしました。

次に、小学校の学校施設管理経費について80万6,000円を補正しました。給食が学校に運ばれてきた時に、大規模校では学校施設主員が1人で対応するのは難しいということで会計年度職員を3時間、雇用して対応していただく経費を小学校4校分計上いたしました。従来は業務委託をしておりましたが、今年度から市が専任で雇用したという形になっています。また、後ほど中学校についても出てきますが、これも同様に大規模中学校1校に対して1名の会計年度任用職員を雇用するということで補正いたしました。

田原課長

ここからは学校教育課の事業になりますので、私から説明させていただきます。

まず、特別支援連携協議会経費というところで14万円の増額補正をいたしました。昨年度から引き続きのものではありますが、県のモデル事業といたしまして保育園と小学校の連携や接続をより行っていくことで、各学校に広めていくという事業があり、昨年度豊川保育園と豊川小学校において事業を実施しましたが、今年度も昨年度と同額の予算で実施する予定にしておりましたが、県からこの事業を活性化してほしいということで20万円の予算が下りてきましたので、その増額分を補正いたしました。

次に学校保健衛生対策経費です。小学校費につきまして25万円を増額しております。これは、新型コロナウイルス感染症のために延期しておりました学校の健康診断を今行っているところですが、健康診断を実施するに当たりまして、感染症対策のためにかかる費用、消毒液の購入費、医師の方の感染症対策といったところを、この予算で対応していきます。国の

補助が2分の1あり、残りの2分の1につきましては新型コロナウイルスの地方創生臨時交付金で賄っております。また、後のページで出てきます中学校費分につきましては、10万円の増額補正をいたしました。

次に、学校図書館支援事業費です。各学校に図書館資料を配置しているところですが、これまで臨時職員として雇用しておりました図書館司書の方々を今年度から会計年度任用職員という形で雇用していくことになり、これに伴い期末手当を支給することになりました。この期末手当についても県の補助が2分の1は出るということで県と確認をしていたところですが、補助対象外ということが分かりまして、事業費自体は変わりませんが、財源を県支出金から一般財源に振り替えさせていただきました。中学校費分につきましても同様に財源振替を行っております。

次に、小学校費の特別支援教育対策費です。これにつきましては、今年度入りまして4月21日から5月10日まで学校を臨時休校いたしました。その関係で、緊急預かりということで小学校1年生から3年生までの、医療従事者の方々を中心とした各家庭のお子さん方の預かりをいたしましたが、その支援員の報酬等に係る経費として62万1,000円を増額補正いたしました。

また、コロナの対応のために、県を通じて国から学校の教育活動に対して、学力向上を目的とした支援員の配置について一定程度補助が出るということがありましたので、現在市内小学校に支援員として入ってもらっている方々の報酬について財源振替を行っております。中学校費分も同様に財源振替を行っております。以上です。

山本課長

歴史を活かしたまちづくり魅力発信・調査研究事業費につきましては、文化財課から説明いたします。

これは、日本遺産の事業及び関連事業の推進のための経費になります。以前ご説明申し上げましたが、日本遺産事業等を推進するために昨年度7月に益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会というものが創設されております。これは官と民で構成される団体でございます。今後はここを母体として日本遺産事業を進めていく形となっております。ただし、この実行委員会は、自主財源を持っておりません。従いまして、市で予算計上して、それを貸し付け、補助金が入った後に返していただくという仕組みで運営していきます。

まず、日本遺産事業だけを見ますと、1,754万9,000円の補助対象となる貸付金と398万8,000円の負担金補助及び交付金が補助対象外の経費で市の単独費となっております。補助の精算が終わった段階で、この1,754万9,000円は市に返還していただきます。

そして、日本遺産の認定前から文化財課で進めている事業で文化財保存活用地域計画に伴う普及啓発事業に対して256万3,000円を実行

委員会に貸し付けて、精算後、同額を返還していただく形になっております。

このような形で運営できるように補正したところです。

大畑推進監

33ページからは社会教育課が説明します。

まず、雪舟の郷記念館開館30周年・雪舟生誕600年記念事業費について、当初、県の補助事業を使いながら、先ほどありました日本遺産を推進する母体であります益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会に委託して、そこで事業展開をする予定でございました。しかし、補助金の性質が途中で変わりましたので、委託から補助金として実行委員会に出すということに変更となり、その予算付けを変更したところです。

次に、子ども支援センター事業費です。財源のところを見ていただきますと、もともとは昨年度までいじめ対策・不登校支援等推進事業費委託金ということで、センターに来ることができない子たちに対してアウトリーチをするということで、外部に委託しておりました。今年度その事業がなくなりまして、代わりに学校を核とした地域力強化プランと学びを通じたステップアップ支援促進事業というものの、これは両方とも文部科学省の10分の10の事業です。これを財源として充当して、若干性質が変わるところもありますが、昨年度よりも充実した事業になるということでの予算、財源を組み替えたという補正でございます。

次に、未来の担い手育成事業費です。この事業はボランティアハウス等で行っている地域ぐるみで子どもを育てるという事業で、結集しまね子育て協働プロジェクト事業費、国3分の1、県3分の1、市3分の1の国県補助金が全県で応募多数により減額されたというところと、しまねすくすく子育て支援事業費というものが10分の10の県事業が採択されたということ、それから教育の魅力化に関してコンソーシアム運営費補助金という補助金が入ったということで当初、予定した事業内容ができるように予算を変更したものでございます。

次に、ひとづくり推進事業費です。これは、県の地域での島根を創る人づくり推進事業費補助金が採択されましたので、この事業につけて主に公民館事業のスキルアップの研修をしております。その研修にかかる費用について増額補正をいたしました。

最後に、公民館管理・拠点化推進事業費について、鎌手公民館の水道工事について増額しております。鎌手公民館は鎌手中学校から水道の本線が来ておりまして、そこから引いておりましたが、鎌手中学校が閉校になったことで本線を使わなくなり、さびが出てくるという状況になりましたので、道路側の本管から引いてくる工事を行いました。以上です。

村上委員

雪舟の郷記念館開館30周年・雪舟生誕600年記念事業費の貸付けというのがよく分りませんでした。貸付けをするということは返してもら

うということですか。

山本課長

はい。自主財源を全く持っていない実行委員会ですので、市が予算計上して、一旦貸付をするという仕組みを取っております。

野村部長

国の補助金が実行委員会に流れてきますので、この補助金をいただいたら返還をしていただくということになっております。

村上委員

分りました。ありがとうございました。

柳井教育長

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

柳井教育長

それでは、次回は１０月２８日の９時３０分から定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

＝終了時間　１４時５５分＝